

箱だし調剤に関する一般市民の意識調査

対物業務の効率化の先に薬剤師のさらなる役割拡大を目指して

2026.3.5

北海道科学大学 武田香陽子



利益相反（COI開示）

タイトル：「箱だし調剤に関する一般市民の意識調査」

発表者：北海道科学大学 武田香陽子

本発表に関わるCOIはありません。

目次 INDEX

1 調査目的、方法

2 調査結果

3 考察



箱だし調剤に関する本調査の目的



「箱出し調剤」の可能性を具体的に検討するため、「箱出し調剤」に関する一般市民の方々の認識・意向を検討するもの。

- ① 特に、日本における調剤は患者個々に応じた細かな心遣いが「薬袋」等に含まれており、**医療従事者のみの見解で箱だし調剤の可能性を検討することはできない。**
- ② 医薬品の品質保証の意味からだけでなく、**薬剤師業務の効率化に関わる側面からも**重要な調査である。

本研究の成果によって、その後の薬剤師の活動を拡大できる可能性もあり、「箱出し調剤」によって薬剤師業務の効率化ができた先には、薬剤師による一般市民の方々への健康への関わりのさらなる**充実**などが検討されています。

箱だし調剤に関する本調査の方法

箱だし調剤：

「市販薬のような箱単位のまま、皆さんにお渡しする調剤」

- ・本調査の趣旨を理解し、アンケート調査に回答することに同意をした、全国の一般市民計651名の方に回答いただいた。

○ **調査方法**：Webによるアンケート調査、全21項目

○ **解析方法**：得られたデータを記述統計で一般市民の方の意識・認識を示した。

○ **倫理審査**：北海道科学大学薬学部倫理審査委員会の承認を経て、

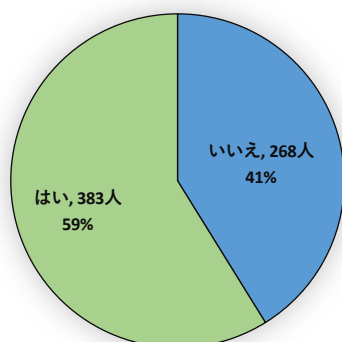
倫理審査番号 第 25-19 号 である。調査は
に則って実施した。



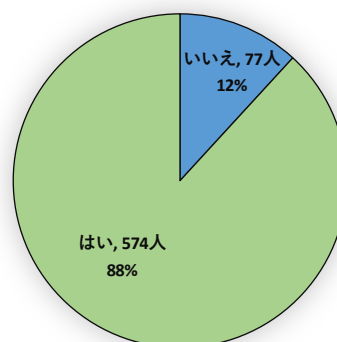
結果1 一般市民の方の薬の服用状況, n=651



Q. あなたは現在、医師から処方されたお薬を飲まれていますか？ n= 651

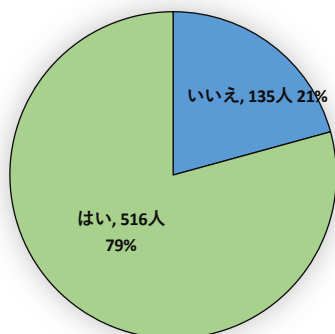


Q. あなたは市販薬を購入して飲んだ経験はありますか？ n= 651



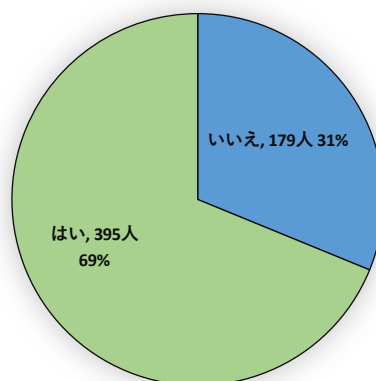
結果2 一般市民の方のお薬説明書や添付文書の確認状況

Q. 医療機関を受診し、医師から処方されたお薬を薬局で飲み方等の説明を受けた時に、お薬と一緒に渡される「**薬局のお薬説明書**」は読んでいますか？ n= 651



Q. 市販薬に入っている**添付文書**（製薬会社が作成したお薬の説明書）は読んでいますか？

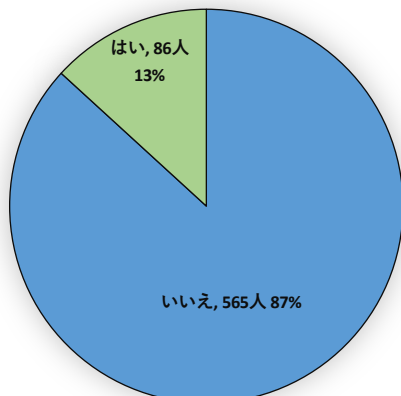
n= 574



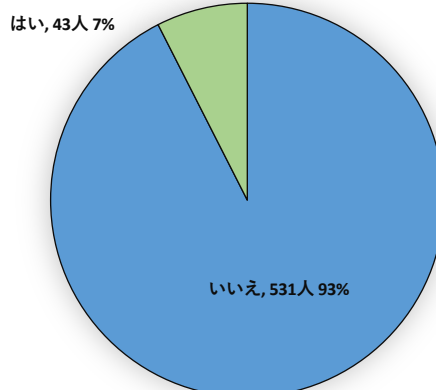
結果3 処方薬と市販薬の副作用発現状況



Q. 医師から処方されたお薬で副作用が出たことはありますか？ n= 651



Q. 市販薬を飲んで、副作用が出たことはありますか？ n= 574

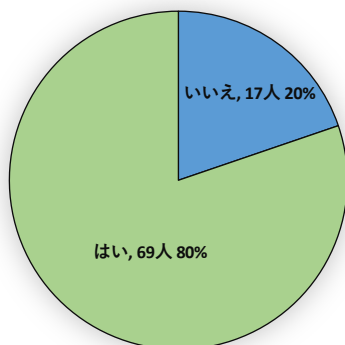


結果4 副作用発現時の添付の文書の確認状況



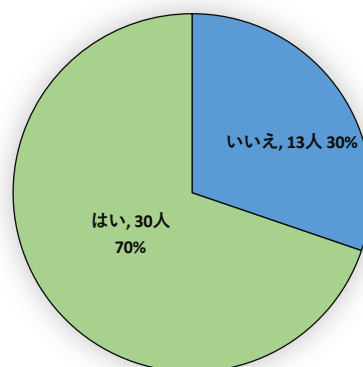
Q. 「医師から処方されたお薬で副作用が出たことがある」とお答えの方にお聞きます。

その時に薬局で渡された「**薬局のお薬説明書**」は読みましたか？ n= 86



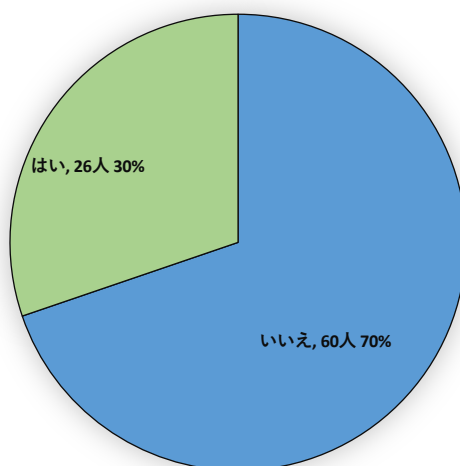
Q. 市販薬を飲んで、副作用が出た時（副作用かも？と思った時）に市販薬に入っている

添付文書は読みましたか？ n= 43



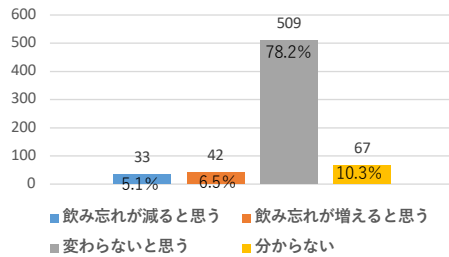
結果5 一般市民の方のインターネット等からの情報入手状況, n=86

Q. 「医師から処方されたお薬で副作用が出たことがある」方, 薬局で渡された「**薬局のお薬説明書**」ではなく、インターネットで、お薬の添付文書を読みましたか？ n= 86

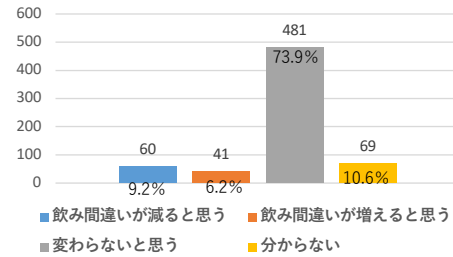


結果6 箱だし調剤によるのみ忘れ、のみ間違えの可能性、 n=651

Q. 市販薬と同じような「箱」単位で薬局から医師が処方したお薬を渡された場合、今までと比べお薬の飲み忘れはどうかと思いますか？

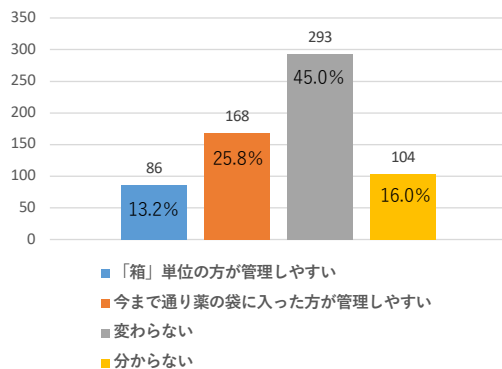


Q12 市販薬と同じような「箱」単位で薬局から医師が処方したお薬を渡された場合、今までと比べお薬の飲み間違いはどうかと思いますか？

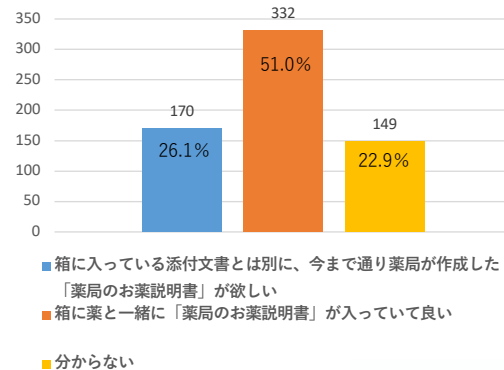


結果7 箱だし調剤による管理や説明書の同封について、 n=651

Q13 市販薬と同じような「箱」単位で薬局から渡された場合、お薬の管理がしやすくなると思いますか？



Q14 「箱」単位で薬局から医師が処方したお薬を渡された場合、お薬の説明書も箱の中に同封された場合、どう思いますか？

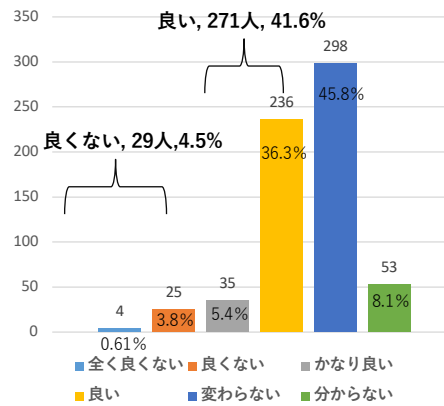
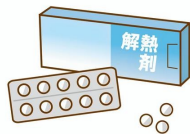


結果8 箱だし調剤による説明書の同封について, n=651

Q15 薬局から渡される「薬局のお薬説明書」は薬局で患者さんごとに特に注意すべき情報を明記しています。

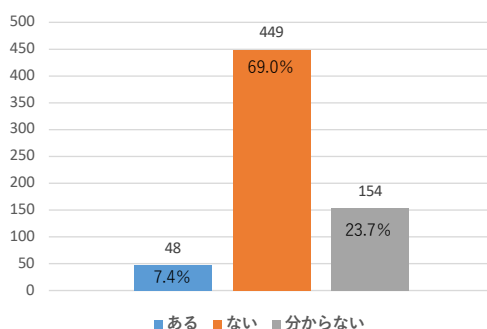
添付文書（製薬会社が作成したお薬の説明書）は製薬会社が法律に定められた内容を記載したお薬の資料で、お薬の詳細な情報が記載されています。

「箱出し調剤」の場合は、このような添付文書が毎回お薬の箱の中に入っていますが、どう思いますか？

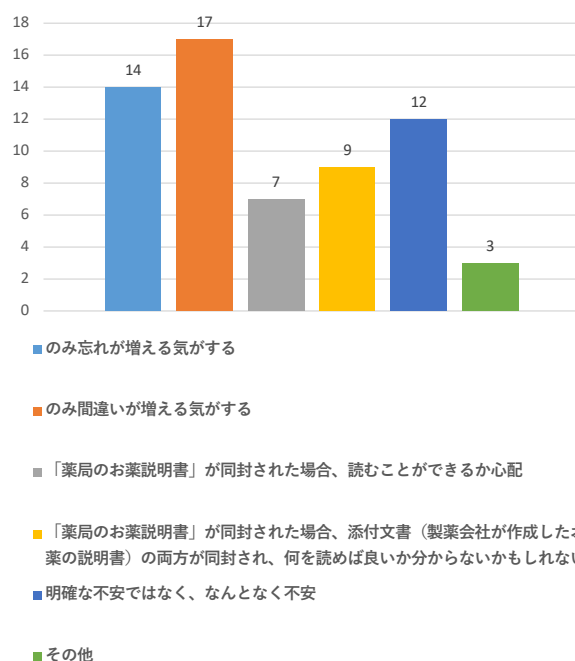


結果9 箱だし調剤による不安について

Q.市販薬と同じような「箱」単位で薬局から医師が処方したお薬を渡されることについて、**不安はありますか？** n=651



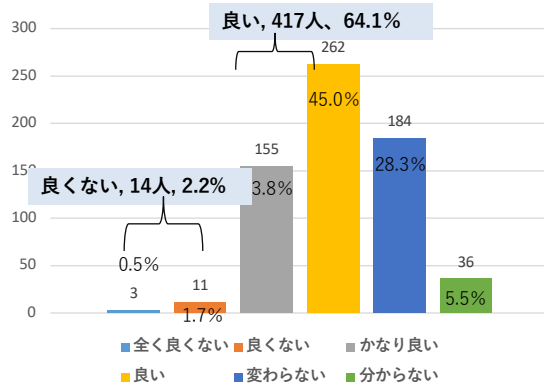
Q. どのような不安ですか？（複数回答可）
n=48



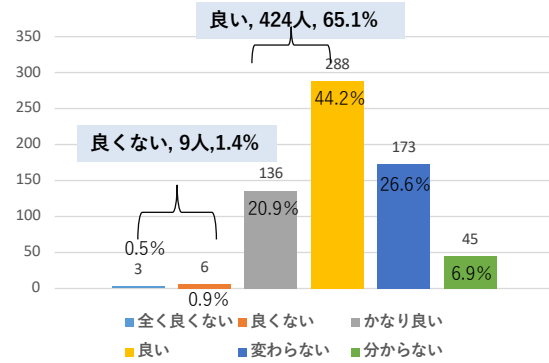
結果10 箱だし調剤による効果, n=651



Q. 市販薬と同じような「箱」単位で薬局から医師が処方したお薬を渡されることで、**お薬の待ち時間が減るとした場合、どう思いますか？**



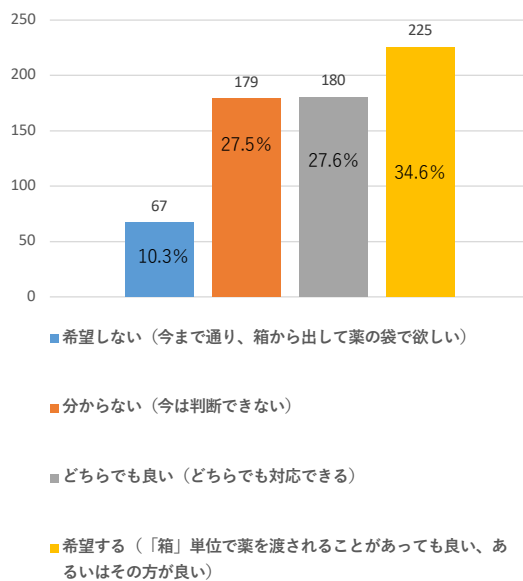
Q. 市販薬と同じような「箱」単位で薬局から医師が処方したお薬を渡すことで、お薬を作る時間が減り、**病気にならないための健康増進や維持に関するサービスが増えたら、どう思いますか？**



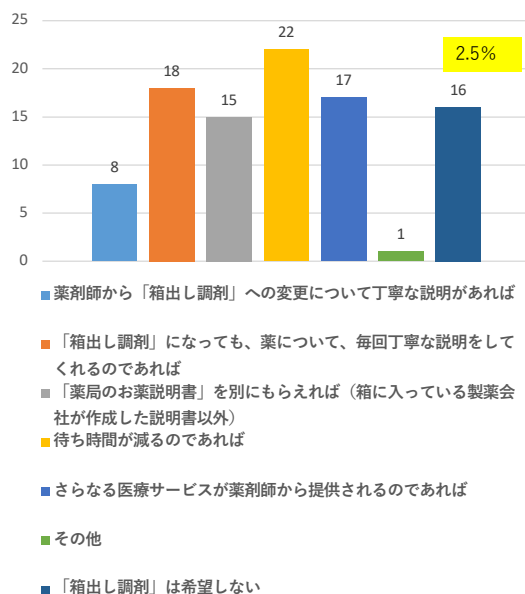
結果11 箱だし調剤の希望

Q. 医師から処方されたお薬が、「箱」単位でお薬を渡されることが増える場合、希望しますか？

n = 651

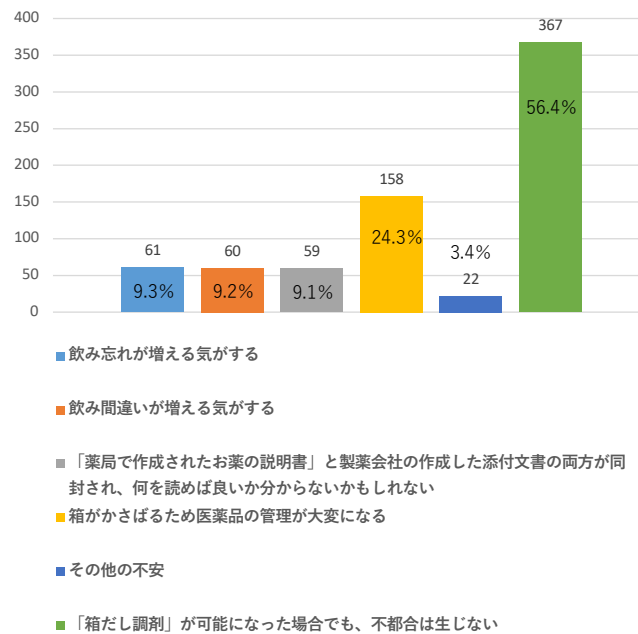


Q. 希望しないとお答えの方にお聞きます。どのような場合であれば「箱」単位でお薬を渡されることを希望しますか？ (複数回答可) , n = 67



結果12 箱だし調剤による考えられる不都合, n=651

Q.「箱出し調剤」が可能になった場合、どのような不都合が生じると考えますか？（複数回答可） n=651



小括



- 医療機関で渡される薬とほぼ同様（約8割，79％）に、市販で購入する市販薬の薬の説明書も約7割，69％の患者は読んでいる。
- 医療機関で渡される薬の副作用は651人中患者の13％で発症し、市販薬では574人中7％程度の方で発症していた。
- 副作用が出た方のうち、医療機関で薬を渡された80％(69人/86人中)の患者はお薬の説明書を確認し、市販薬では70％(30人/43人)の患者が添付文書を確認していた。
- 副作用が出た方のうち、医療機関で薬を渡された80％の患者はお薬の説明書を確認し、その内、30％の方(26人/86人中)はインターネットで添付文書を見ていた。
- 医療用医薬品も箱単位で出された場合でも651人中7割以上の人は「飲み忘れや飲み間違いは変わらない」と回答した。一方、「飲み忘れや飲み間違いが増える」と思う人は6％程度(42人と41人)、「減る」と思う人は5％と9％(33人と60人)であった。

小括



- 箱単位でお薬を渡された場合、「管理方法は変わらない」と回答した方は651人中45%(293人)、「管理しやすい」と回答した方は13.2%(86人)、「今までの方が良い(薬袋)」は25.8%(168人)、「分からない」は16.0%(104人)であった。
- お薬の説明書が同封された場合については、651人中「今まで通りのお薬説明書も欲しい」は26.1%、「箱に入っても良い」は51.0%、「分からない」が22.9%だった。
- お薬の説明書が「箱」に同封された場合、「良くない」は29人(4.5%)、
「良い」は271(41.6%)、「変わらない」は298人(45.8%)、「分からない」は53人(8.1%)だった。
- 箱だし調剤に関する不安は69%(449人)が「ない」と回答した一方、「ある」は48人(7.4%)、「分からない」は154人(23.7%)だった。
- 48人の不安は飲み忘れ、飲み間違い、読めるか心配、何を読めば良いか心配、なんとなく不安、等があった。

小括

- 箱単位でお薬を渡された場合、待ち時間が減るとしたら？の質問には「良くない」は14人(4.4%)、「良い」は417人(64.1%)、「変わらない」は184人(28.3%)、「分からない」は36人(5.5%)だった。
- 箱単位でお薬を渡された場合、健康増進や維持に関するサービスが増えたらどう思うか？について、651人中「良くない」は9人(1.4%)、「良い」は424人(65.1%)、「変わらない」は173人(26.6%)、「分からない」は45人(6.9%)だった。
- 「箱」単位でお薬を渡されることを希望しますか？について、「希望しない」は67人(10.3%)、「希望する」は225人(34.6%)、「分からない、今は判断できない」は179人(27.5%)、「どちらでも良い」は180人(27.6%)だった。



小括

○「箱」単位での調剤を希望しないと回答した67人に、「どのような場合であれば希望するか」を聞いたところ、

- ・丁寧な説明、お薬説明書を別にもらえれば、待ち時間が減れば、さらなるサービスが提供できれば等を選択いただけたが、**いかなる場合も希望しないと回答した方は16人(651人中)2.5%**だった。

○箱単位での調剤による不都合を聞いたところ、**651人中367人(56.4%)**は「不都合は生じない」と回答し、かさばることによる管理面での不都合があると158人(24.3%)が回答した。のみ忘れ、飲み間違いの懸念は10%未満の方が気にされていた。



研究限界

○Webでの調査であることから、インターネット等利用できる患者層へのアンケート結果である。

○金銭的面から調査対象者数は651名であり、さらにお薬を現在服用している人は回答者の383人,59%である。

○箱だし調剤の定義はしたものの共通認識を持てたかどうかは不明。



実装のためにはさらなる具体的な調査の継続は必要



総括

箱出し調剤に関する可能性については

十分な説明、待ち時間の減少、さらなるサービスを前提とし、ポジティブな意見が多かった。

一方、ネガティブな意見・不安を持つ方への十分な説明も求められる。

箱出し調剤が進める先には薬剤師が現状十分に対応できていない対人業務の充実、健康維持増進へのさらなる社会的貢献が求められる。



謝辞

本研究の実施に当たり、ご協力いただきました方々、厚生労働科学研究費：地域共生社会における調剤業務の効率化に係る方策の有用性・安全性の評価・検討のための研究（24KC1005）の代表者入江徹美先生、研究協力者の皆様に心より感謝申し上げます。

